

調査結果に関する報告

本報告書は、調査より得られた数値をもとに、本学の典型的な学生像を把握することを目的とする。報告書において以下で掲載される統計の形式の関係上、平均値ではなく、最頻値や分布・割合に注目する。キャンパス別・学部別・学年別・性別の差異に関しては、特筆すべきものが確認された場合に限り、報告する。経年変化については、例年と比べ特段の顕著な特徴がなかった場合はあえて言及しない。

I 生活

1. 通学・住居 (Q1～Q4)

コロナ禍前は「通学日数」をたずねる質問であったが、オンデマンドやオンライン授業があることから、「履修日数」をたずねた。履修日数について、キャンパス・学部・学年・男女で比較すると、とりわけ「学年」による違いが顕著である。最頻値は、1年生と2年生は週5日、3年生は週4日、4年生は週1日である（もっとも、4年生は週2日が27.3%、週1日が29.1%と僅差である。なお、昨年度は4年生の最頻の週2日が33.2%とやや突出していた）【Q1】。

各学年について履修日を曜日で特定すると、各学年とも、月曜から金曜までほぼ同程度である。1年生は土曜日も28.5%(昨年度32.7%)が履修しているが、2年生(19.5%)、3年生(9.1%)、4年生(4.0%)と学年が上がるにつれて土曜日の履修者数は減る【Q2】。

通学時間はキャンパスで違いがあり、市ヶ谷は30分～1時間未満と1時間～1時間30分未満が多く、合計で76.5%(4分の3)をしめる。多摩は30分～1時間未満が最も多く(24.2%)、小金井は1時間30分～2時間未満が最も多い(26.4%)。2時間以上の割合は、多摩(18.7%)と小金井(14.6%)が市ヶ谷(5.0%)よりも顕著に高い。一方、30分未満の割合も、多摩(15.1%)と小金井(24.7%)が市ヶ谷(4.8%)よりも顕著に高く、多摩と小金井では学生間での通学時間の違いが大きい【Q3】。

自宅生か自宅外生かもキャンパスによって違いがあり、自宅外(アパート等)から通う学生の割合は、多摩(34.6%)が市ヶ谷(19.6%)と小金井(23.7%)よりも高い。学部別にみると、自宅外の割合が最も高かったのは現代福祉学部(47.9%)、最も低かったのは国際文化学部(9.2%)である【Q4】。

自宅外生限定で尋ねた「春学期期間中はどこで過ごしたか」については、「ずっと自宅外」は87.6%と昨年の86.8%とほぼ同水準である。残りは自宅と自宅外を組み合わせしており、「最初は自宅で途中から自宅外」が3.6%、反対に「最初は自宅外で途中から自宅」が1.3%である【Q4-1】。

住まいの紹介者は、最も多いのは「外部の不動産業者」である(49.1%)。ついで「インターネット」(24.7%)と「大学(大学推薦寮、大学が委託する不動産業者を含む)」(15.5%)である。学部別では目立った差異は認められないが、キャンパス別では多摩がより「大学(大学推薦寮、大学が委託する不動産業者を含む)」を使っている(23.0%)【Q4-2】。

家賃はキャンパスによって違いがみられる。市ヶ谷は6・7・8万円が多い(合計で60.8%)。一方、多摩は5万円(23.0%)と6万円(28.4%)が多く、小金井も5万円(20.0%)と6万円(22.9%)が多い【Q4-3】。

学費を除いた仕送り額は、最頻値が月額5万円(台)である(17.2%)。昨年度も同様に5万円が最頻値であったが、割合は23.7%から減少している。また、月額5万円未満が40.8%、月額6万円以上が42.0%(昨年度は33.4%)で、仕送り額が昨年より増えている傾向が見て取れる（た

例えば、月額 10 万円が昨年 7.5%に対し今年は 10.3%と割合が増えている)。キャンパス・学年・性別による極端な違いは確認されない【Q4-4】。

2. アルバイト (Q5)

アルバイトは多くの学生が経験していた。経験の「ある」学生が 80.3%、「ない」学生が 19.2%である。学年別にみると、経験の「ない」学生の割合は、1 年生 32.2%、2 年生 11.8%、3 年生 13.0%、4 年生 8.7%と徐々に減少している。なお、男女別にみると、アルバイト経験の「ない」学生の割合は、男子(23.1%)が女子(16.4%)よりも高い【Q5】。

アルバイト経験者の中では、「年間を通して」アルバイトをする学生(90.6%)が多いほか【Q5-1】、8 割以上の学生が「インターネットで」(81.8%)アルバイトを探している【Q5-2】。【Q5-1】・【Q5-2】について、キャンパス別・学年別・男女別で大きな差異はない。

アルバイトに費やす時間は、月あたり平均時間で調査した。幅広く分布し、最頻値は 40 時間(16.1%)であるが、30 時間(14.1%)・50 時間(15.3%)・60 時間(14.5%)も同程度である。20～60 時間の範囲に 7 割強の学生が分布している。なお、長時間労働と考えられる 100 時間以上の学生は 1.4%いるが、昨年の 2.0%からは微減している【Q5-3】。

アルバイトの収入に関しては、月あたり平均 5 万円(台)(15.3%)が最頻値であることは昨年(15.5%)と変わらず、月 3 万円(台)～8 万円(台)の範囲に多くの学生(75.1%)が分布している点も昨年度(74.0%)と同様であるが、3 万円(台)が微減(12.8%→10.5%)し、8 万円(台)が微増(9.2%→11.0%)している【Q5-4】。

アルバイト収入の使途(複数選択可)は、娯楽・交際費(81.5%)が圧倒的に多く、次いで貯金(56.9%)、食費(52.4%)、服飾費(52.1%)、日用品費(44.5%)となっている【Q5-5】。

3. 奨学金 (Q6～Q8)

奨学金を「必要としている」とした学生(34.2%)は、「必要としていない」とした学生(65.6%)よりも少ない【Q6】。

この傾向は実際の受給状況にあらわれており、奨学金を受けている学生の割合(21.8%)は、受けていない学生(78.0%)よりも実際に低い【Q7】。

希望する奨学金の金額は、月額 5 万円が最も多く(26.3%)【Q7-1】、実際に受けている月額も 5～6 万円未満が最も多い(20.3%)。月額 10 万円以上を希望する学生は 25.9%だが、実際に月額 10 万円以上受けている学生は 18.6%である。キャンパス別にみると、小金井で月額 10 万円以上の奨学金を受けている割合(30.8%)が、市ヶ谷(17.7%)と多摩(14.4%)よりも高い【Q7-2】。

奨学金の使途(複数選択可)は、学費が最多(84.6%)である。食費(20.5%)、住居費(20.7%)、通学費(20.3%)は同程度である【Q7-3】。

本学では「家計急変奨学金」を年 2 回(6 月・11 月)募集しているが、それを知る学生は 35.5%、知らない学生は 64.4%である。学年別には、2 年生以上では 4 割以上の学生が知っている一方、1 年生で知っている割合は 3 割未満(22.1%)である【Q8】。

4. 悩み・健康 (Q9～Q17)

学生生活上の悩みや不安が「ある」を選択した学生は 33.1%で、昨年の 37.9%から微減した。「ない」と「あったが解決した」は 66.7%である。学年別にみると、「ある」を選んだ学生は 3 年生で 39.9%と最も高く、最も低かったのは 4 年生である(24.0%)。1 年生は 34.9%、2 年生は 34.7%である【Q9】。

悩みや不安の具体的内容(複数選択可)のうち、最も多かったのは「成績・単位」(59.7%)で、次に多かったのは「進路・就職」(59.0%)である。「就職・進路」について学年別にみると、4年生 68.8%が最も高い。昨年度の3年生の数値も 81.0%と突出して高く、この学年に特有の事情が何かあるのかもしれない。なお、3年生も 67.9%、2年生も 64.6%が「進路・就職」の悩みがあると回答しており、早くも2年生段階から学生が進路・就職を意識していることがうかがわれる。一方、1年生では、「成績・単位」を挙げる割合が最も高い(76.4%)など、学年ごとに悩みの内容に違いが見受けられる【Q9-1】。

相談相手は、家族や先輩・友人が多い(親 43.7%、兄弟・姉妹 11.7%、法政大学の先輩・友人 35.0%、法政大学外の先輩・友人 23.2%)。大学関係の相談相手は、教職員(5.1%)、学生相談室・ハラスメント相談室(9.3%)である。学年別にみると、1年生では、教職員と学生相談室・ハラスメント相談室を相談相手として挙げる割合が、1.3%と 3.9%にとどまっているものの、学年が上がるごとにその割合が増加し、4年生ではその割合が 15.3%と 15.9%に上昇している【Q9-2】。また、学生相談室の心理カウンセラーの存在は、6割以上の学生に認知されている(62.9%)【Q10】。

なお、【Q9-2】で「相談していない」を選択した学生が 34.4%いたが、解釈に注意が必要である。というのは、本設問は複数選択可であった。そのため、仮に「悩みがあれば誰かに相談したが、誰にも相談しない悩みもあった」という学生がいた場合、「相談していない」を選択した上で、他の選択肢も選択した可能性がある(例えば「先輩・友人」等)。

健康状態について、「健康とは言えない」を選択した学生は 2.9%、「多少の不安がある」を選択した学生は 15.2%である【Q11】。症状としては、「不安感」(45.2%)、「無気力感」(42.1%)、「抑鬱感」(35.3%)、「不眠」(32.5%)といった精神的なものが上位を占める【Q11-1】。

現在の精神状態について、近いものを問うたところ(複数選択可)、「穏やかである」(50.8%)・「元気である」(49.3%)との回答が上位を占めた。一方で、「気分が落ち込んでいる」(9.7%)・「孤立感・孤独感を感じる」(8.1%)・「わけもなく悲しくなる」(6.1%)との回答もみられたが、昨年度の分布(それぞれ 11.3%・10.7%・6.9%)と比較すると、これらの回答はいずれも微減している【Q12】。

精神状態を良好に保つために行っていること(複数選択可)は、「睡眠を十分にとる」(65.9%)、「好きなことに打ち込む」(57.1%)、「人と話す」(51.3%)が多い。男女別にみると、「運動をする」との回答は男性(34.2%)の方が女性(21.3%)よりも高く、他方で「人と話す」との回答は男性(46.3%)よりも女性(54.9%)の方が高い【Q13】。

睡眠時間は、最頻値が 6 時間(42.9%)で、ついで 7 時間(33.9%)である。短時間睡眠である「5 時間以下」の学生の割合は、学年が進むにつれて減少する傾向にある(1年生 16.3%、2年生 14.3%、3年生 11.0%、4年生 7.8%)。逆に、長めの睡眠時間に当たる「8 時間以上」の割合は、学年が進むにつれて増加する傾向がみられる(1年生 6.0%、2年生 7.9%、3年生 10.7%、4年生 18.4%)【Q14】。

食生活について、60.5%の学生が「3 食食べる」と回答する一方、23.7%の学生が「時間や回数が不規則である」と回答している。学年別にみると、「3 食食べる」の分布は 1・2 年生(67.8%・61.2%)と 3・4 年生(52.3%・53.1%)の間に違いがみられ、「時間や回数が不規則である」については 1 年生とそれ以外とで違いが見受けられる(1 年生 18.8%、2 年生 26.1%、3 年生 28.6%、4 年生 26.4%)【Q15】。

喫煙者は全体の 3.5%である。学年が上がるにつれて喫煙者の比率が大きくなる(1 年生 1.0

%、2年生 1.1%、3年生 6.8%、4年生 7.6%)。男女別では男性 6.1%、女性 1.6 %である【Q16】。

5. モラル・マナー (Q17～Q19)

法政大学生のモラル・マナーの低下・欠如を感じたことがあるかという問いについて、「ある」と回答した学生は 36.2%、「ない」と回答した学生は 57.1%であった。昨年度(ある 31.3%・ない 61.9%)と比較すると、他の学生のモラル・マナーに問題を感じる学生が残念ながら増えているようである【Q17】。「ある」と回答した学生にそれはどんな時かを問うと、最も多い回答は「授業中の私語」(74.6%)で、次いで「授業の遅刻・早退」(41.4%)であった。コロナ禍のオンライン授業の影響でこれらの回答の割合は一時いわば怪我の功名的に低下していたが、対面授業の再開とともに残念ながら(予想されたものではあるが)元の水準(2019年度に実施した(2018年度から2019年度を反映した)調査では、それぞれ 78.3%・50.0%)に戻りつつある【Q17-1】。

学内で危険な目にあったことが「ある」と回答した学生の比率は、全体の 1.7%である【Q18】。内容は「ハラスメント」が多く(36.4%)、次いで「その他」が 30.3%、「宗教勧誘」が 18.2%である。「マルチ商法や高額機材購入などの悪徳商法」は、昨年 4.5%から今年 15.2%と大きく増加している【Q18-1】。

被害を受けた際に相談した相手は、家族・友人(54.5%)が多い。被害学生の 33.3%は誰にも相談していない(ただし、複数選択可の設問である点に注意)。特に、女性(27.8%)よりも男性(40.0%)が相談しないと回答した割合が高かった(回答数自体が少ない設問ではあるものの、昨年度も同様の傾向がみられた(男性 61.5%・女性 11.1%))【Q18-2】。

6. 帰属意識 (Q19～Q21)

帰属意識については、「大学に親しみを持った経験」が「ある」を選んだ学生は 55.8%と昨年 49.0%より増えた。「ない」を選んだ学生は 44.1%で、昨年の 50.2%より減った。キャンパス別では小金井では「ある」が 43.7%にとどまり、市ヶ谷の 59.0%、多摩の 55.4%と比べて低い【Q19】。親しみをもちた契機(複数選択可)としては、授業への参加(42.3%)、サークル活動(38.1%)が上位である【Q19-1】。

「法政大学校歌を歌えるか」に関しては、昨年度までは「歌える」「歌えない」の二択で問うていたが、今年は「歌詞が一部うろ覚えだがだいたい歌える」・「歌詞を見ながら歌える」の選択肢を増やして問いかけたところ、「歌えない」を選んだ学生は 73.7%で、昨年の 84.5%より減った。「歌える」を選んだ学生は 8.9%、「歌詞が一部うろ覚えだがだいたい歌える」が 6.8%、「歌詞を見ながら歌える」が 10.4%の合計 26.1%で、全体としては昨年度「歌える」と回答した割合(14.8%)よりも増えているが、これは項目を増やした際の予想の範囲内とも言え、実際に校歌を歌える学生が増えた(歌えない学生が減った)と単純に言うことはできないであろう。学部別にみると、「歌えない」と回答した割合が最も高かったのは現代福祉学部の 86.5%、最も低かったのはスポーツ健康学部の 64.2%であったが、他方キャンパス別でみると、小金井において「歌えない」と回答した割合がやや高い(市ヶ谷 71.8%・多摩 74.3%・小金井 80.3%)【Q20】。

Ⅱ 正課教育

1. 授業に期待していること (Q21)

「授業に期待していること」への回答(複数選択可)としては、「新しい知識・発想」(75.9%)と「学問的知識・発想」(69.1%)が高い。学部別にみると、デザイン工学部(43.5%)・情報科学部(43.0%)・現代福祉学部(41.7%)において、「実務との関係」を回答した学生が多い(全学平均 29.3%)【Q21】。

2. 科目履修関連 (Q22～Q25)

科目履修にあたり重視すること(複数選択可)では、「内容」が最も多い(82.6%)。「講義の時間帯」(69.0%)や「単位取得の難易度」(60.5%)が続く。特に市ヶ谷では、「講義の時間帯」を挙げる学生(71.9%)が、多摩(66.2%)や小金井(63.1%)と比べて多い。学年別にみると、「単位取得の難易度」を選んだ割合は、1年生(66.0%)、2年生(60.3%)、3年生(59.4%)、4年生(52.0%)であり、学年が上がるごとに割合は低くなっている【Q22】。

科目履修に関して満足している点(複数選択可)では、「関心のある科目が多い」の割合が43.1%と高く、「バランスよく学べる」(33.4%)、「科目が多い」(31.9%)、「履修に無理がない」(29.8%)が続く。なお、「科目が多い」との回答は、市ヶ谷が36.7%であるのに対し、多摩が25.7%・小金井が24.7%であった【Q23】。

一方、科目履修に関して不満な点(複数選択可)では、「同一曜日・時限に希望科目が集中している」という不満が最も多い(48.3%)。この数値が高い学部は人間環境学部(61.2%)、文学部・キャリアデザイン学部(共に60.6%)であるのに対し、低い学部はデザイン工学部(15.9%)、理工学部(27.7%)、情報科学部(30.2%)である。続いて不満が多かったのが「抽選のために受講できない科目がある」(40.5%)で、特に市ヶ谷(51.1%)が、多摩(25.3%)や小金井(26.8%)と比べて多い【Q24】。

「1日の自習時間」について、最も選ばれたのは「1時間」(26.3%)である。次いで「2時間」(24.8%)、「1時間未満」(23.5%)が多い。学部別にみると、GISの学生は「2時間」が32.3%、「3時間」が29.0%を占め、また「4時間」も12.9%に上るなど、多くの時間を自習に割いている傾向が見受けられる。またキャンパス別にみると、小金井では「2時間」(30.8%)と「3時間」(17.3%)が他キャンパスより高く、多めに自習に時間を割く傾向がある【Q25】。

3. オンライン授業 (Q26～Q30)

オンライン授業に十分に対応できているかという質問に対し、「十分に対応できている」が59.9%で最も多いものの、昨年の63.0%から微減している。また、「ある程度対応できている」は20.0%である。一方、「あまり対応できていない」が2.7%、「全く対応できていない」が1.5%で、ほとんどの学生がオンライン授業に対応できていることがうかがわれる【Q26】。

オンライン授業を受講している場所は、「自宅」が50.5%で最も多く、次いで「大学内のフリースペース」(14.2%)・「大学内の自習スペース」(11.5%)となっている。自習スペース・フリースペース・大学図書館を合わせた学内での受講をキャンパス別にみると、市ヶ谷が32.8%、多摩が22.9%、小金井が23.7%となっている。なお、図書館を回答した者は多摩(7.0%)が市ヶ谷(1.9%)や小金井(0.7%)よりも多い【Q27】。

オンライン授業を受講するための端末については、「パソコン」が 71.0%、タブレットが 4.8%、スマートフォンが 4.3%であった【Q28】。

インターネット環境を問う設問への回答は、「プロバイダ契約をしている」が 70.1%と最多であるが、昨年の 81.3%と比較すると減少している【Q29】。

オンライン授業と対面授業に対する考え方を問う設問に対しては、「どちらも続けるべき」が 60.4%と最多であるものの、昨年の 65.7%よりも割合は減少した。【Q30】。

4. 教員とのコミュニケーション (Q33)

「教員とのコミュニケーション」に「満足している」学生は 70.5%で、昨年 66.1%より微増した。他方、「満足していない」学生は 21.0%で、昨年 23.4%より微減した。学年別にみると、学年が上がるにつれて満足している数値が高くなる(1 年生 67.2%、2 年生 68.9%、3 年生 70.8%、4 年生 77.3%)【Q33】。

教員とのコミュニケーションに満足していないと回答した者に不満な点(複数選択可)を尋ねたところ、「相談しにくい」(67.3%)・「機会がない」(62.7%)・「どこで教員と話せるのかわからない」(50.6%)との回答が多かった。なお、回答数が 14 にとどまるためどこまで意味のある数字と受け取るべきかは慎重な検討を要するが、生命科学部において回答者全員が「相談しにくい」を選択している点(100.0%)がやや気になった【Q33-1】。

Ⅲ 正課外教育・課外活動

1. 正課外学習 (Q34～Q37)

大学の授業の予習・復習などとはまったく別の独自の学び(いわゆる正課外学習)について、「あなたにとって授業以外の学習活動とは、どのような活動のことだと思っていますか。」と尋ねたところ(複数選択可)、「主に机に向かって何かしていること(読書など)」が 65.0%、「主にインターネットなどで調べ物や他人と意見交換をすること」が 46.9%、「主に友達やゼミ生同士で話し合いをしていること」が 40.6%であった【Q34】。

それらの正課外学習を主にどこで行っているかを尋ねたところ(複数選択可)、自宅(64.7%)、大学内のフリースペース(学生ラウンジなど)(34.0%)、大学図書館(32.1%)、大学内の自習スペース(スタディールームなど)(28.2%)などとなった。キャンパス別にみると、多摩では大学図書館との回答が多いのに対し(市ヶ谷 28.1%・多摩 42.3%・小金井 29.5%)、自習スペース・フリースペースを回答した者は市ヶ谷・小金井の方が多摩よりも多かった(こうした傾向は昨年度とおおむね同様である)【Q35】。

正課外学習用のスペースとして、どのようなものがあるとよいと思うかを「ひとり用の自習スペース」・「数人の仲間とグループ学習できるスペース」・「フリースペース(学習ラウンジなど)」・「その他」から選択する問いに対しては、それぞれ 46.3%・16.5%・21.8%・2.7%となった【Q37】。

2. サークル活動 (Q38)

サークルに参加していると回答した学生は 52.3%、参加していないと回答した学生は 35.0%であった。キャンパスによる違いは特にみられない【Q38】。なお、2013 年度から 2021 年度ま

では、一部の例外を除き、1年生から4年生のすべての学年において、サークル活動に「参加している」が「参加していない」を上回っていたのであるが、2022年度に初めて、1・2年では「参加している」が上回っているが3・4年では「参加していない」の方が多いという分布が現れ、これが23年度・24年度と続いている。これが何に起因するものかは判然としないが、就活の早期化も一因なのであろうか。

「参加している」との回答者に「学内の登録団体」・「学内の非登録団体」・「インカレサークル」のいずれに参加しているのかを複数選択可で尋ねたところ、それぞれ91.4%・11.9%・8.4%となった。キャンパス別にみても特に差異はみられない【Q38-1】。

サークルに費やす時間について、最も多かったのは1週間あたり「3時間未満」(59.0%)である。次いで「3～5時間未満」(19.3%)、「5～10時間未満」(13.1%)であり、10時間に満たない範囲の参加がほとんどである【Q38-2】。

サークルに参加しないと回答した者にその理由を複数選択可で尋ねたところ、多く選ばれたのは「興味の持てるサークルがない」(41.6%)・「参加の必要性を感じない」(33.9%)・「サークル以外の活動が忙しい」(30.1%)であった。学部別にみると、GISの「学習に支障をきたす」(66.7%)・「参加の必要性を感じない」(58.3%)が他学部と比較して高く、また生命科学部の「興味の持てるサークルがない」(60.0%)も相対的に高い(両者とも、昨年度も同様の傾向がみられた)【Q38-3】。

3. ボランティア活動 (Q39)

大学入学後のボランティア経験は「ない」学生が70.2%で、「ある」学生の17.1%を大きく上回る。例外は現代福祉学部で、「ある」学生が55.2%、「ない」学生が26.0%である。キャンパス別にみると、市ヶ谷(ある18.3%・ない69.3%)や多摩(ある20.8%・ない65.2%)に比べ、小金井(ある5.8%・ない82.4%)でよりボランティア活動経験のなさが際立つ【Q39】。

ボランティア活動の内容を複数選択可で尋ねたところ、「地域活動」(38.1%)・「幼児・児童・高齢者支援」(31.8%)・「環境保護活動」(24.4%)などの回答が多かった。学部別にみると、母数の少ないものを除けば、現代福祉学部の「幼児・児童・高齢者支援」(83.0%)、社会学部の「地域活動」(69.4%)などが目立つ数値であった【Q39-1】。

また、ボランティア活動への参加のきっかけ(複数選択可)については、「自発的に」(32.7%)、「サークルで参加」(32.1%)、「お知らせ配信を見て」(21.7%)、「友人・知人の誘い」(19.9%)、「学内の掲示を見て」(15.2%)など比較的分散しており、さまざまな間口からボランティア活動に参加していることがうかがわれるが、「大学ホームページを見て」は6.3%にとどまっている【Q39-2】。

4. 課外教養プログラム (Q40)

法政大学の「課外教養プログラムプロジェクト」について知っているかを尋ねたところ、「知っているし、参加した事がある」が6.1%、「知っているが、参加した事はない」が46.4%であり、過半数の学生にはプログラムの存在が認知されていた。他方、「知らなかったが、機会があれば、今後参加してみたい」は23.0%、「知らない、参加しようとも思わない」は11.7%であった【Q40】。

どのようにして企画について知ったかについては、複数選択可で尋ねたものの、「大学からのメール・お知らせ配信を見て」の75.0%が突出していた。この点はキャンパス別にみても傾向に大きな差は見られない【Q40-1】。

「知っているが、参加した事はない」と回答した学生に対し、その理由を複数選択可で尋ねたところ、「授業やサークルで忙しい」が最も多く(72.4%)、「内容に興味が無い」(25.2%)などを大きく上回る【Q40-2】。

5. 大学祭 (Q41・Q42)

大学祭への参加については、昨年度までは1年生から4年生全体に対して同じ問いかけをしていたが、本調査が実施される6月から7月の時点において、1年生はまだ大学祭を経験していないため、2～4年生と同じ問いかけをすることにはやや無理があった。そこで今年度から、2～4年生向けの設問(Q41)と1年生向けの設問(Q42)を分けることとした。このことに起因して、2023年度以前の調査内容と単純に比較することはできなくなっている点に注意が必要である。

2～4年生のうち、「サークルを通じて企画を出したことがある」と回答したのが30.2%、「企画を出したことはないが、来場者として見に来たことがある」が18.7%で、約半数程度の学生が大学祭に何らかの形で参加していることがうかがわれる。単純比較はできないものの、昨年度までも2～4年生をみるとおおむね半数程度が大学祭参加経験があると答えており、半数程度の参加というのが実態なのであろう。なおキャンパス別にみると、「企画を出したことがある」について、市ヶ谷(32.9%)・小金井(33.9%)に比べ、多摩(21.8%)がやや低かった(単純比較はできないが、昨年度も同様の傾向はみられた)【Q41】。

「参加したことはないし、今後も参加するつもりはない」と回答した者に対しその理由を尋ねたところ、大学祭の魅力をどれだけ高めたとしても参加にはつながりにくいと思われる回答(「授業やアルバイト等で忙しい」(24.2%)・「(中高での経験も含め)学園祭というものがあまり好きではない」(8.6%))が約3分の1を占めた。他方、残りの3分の2程度の学生(「サークルに参加していないので、企画を出す機会がない」(35.4%)・「企画や屋台の内容に興味が感じない」(20.7%))については、サークルへの参加の機会を増やしたり、企画や屋台の内容をより魅力的なものにすることによって、大学祭への参加を促すことも不可能ではないのかもしれない。回答数の母数自体はそれほど多くはないものの、貴重な回答を得ることができた。なお、キャンパス別に見た場合に若干気になった点として、小金井で「企画や屋台の内容に興味が感じない」が33.3%とやや高かった点を付言しておきたい【Q41-1】。Q41で「参加したことはないが、今後、参加してみたい」と回答した10.5%も含めると、全学生のうちおよそ2割程度は、大学祭への参加を促す余地があるようである。

今年度から個別に問いかけることとした1年生については、「サークルを通じて企画を出す予定である」が27.2%、「企画を出す予定はないが、来場者として参加する予定である」30.3%であり、「参加する予定はない」を選んだ16.3%よりも参加予定の割合が大きかった。もっとも、回答時点ではまだ予定が決まっていないという学生も多かったのであろうか、「N/A」の割合も26.1%と高かった【Q42】。

「参加する予定はない」1年生に理由を尋ねたところ、「サークルに参加していないので、企画を出す機会がない」が28.0%、次いで「授業やアルバイト等で忙しい」の24.8%で、これらが1位・2位である点は2～4年生と同様であったが、「(中高での経験も含め)学園祭というものがあまり好きではない」が13.6%とやや多かった【Q42-2】。

6. 新入生歓迎会(祭) (Q43)

新入生歓迎会(祭)へは、31.7%が参加したと回答した。新入生歓迎会(祭)については2020年度の学生生活実態調査から尋ねているが、「はい」が3割を超えたのは今年度が初である【Q43】。

参加した者に新入生歓迎会で何を得たかを複数選択可で尋ねたところ、「キャンパスの雰囲気味わった」が48.7%、次いで「法政の知人・友人ができた」(42.1%)、「サークルに加入した」(38.6%)、「大学生である実感が湧いた」(36.0%)となった【Q43-1】。

7. ダブルスクール (Q44)

法政大学以外の学校(専門学校・予備校等)に「通っている(いた)」と回答した学生は3.6%であり、過去最低を更新した。学部別にみると、経営学部(10.3%)・法学部(7.0%)・経済学部(6.1%)が、他学部よりも高い【Q44】。

8. 留学・国際化について (Q45)

大学の国際化や留学について興味があるかを尋ねたところ、最も多かったのは「特にない」(38.1%)であったが、「海外留学に興味がある」(26.4%)・「語学留学に興味がある」(17.9%)と回答した学生もいた。「海外留学したことがある(2週間以内の短期留学含む)」を回答した学生は4.8%にとどまった【Q45】。

IV 大学について(Q46～Q50)

法政大学を選んだ理由について複数選択可で尋ねたところ、最も多かったのは「勉強したい学部・学科があるから」(48.3%)であった。次いで「入試の難易度に応じて」(31.1%)、「六大学の一つで知名度があるから」(25.8%)となった。逆に少なかったのは、順に「教授陣にあこがれて」(3.2%)、「文化・スポーツ活動が活発だから」(4.4%)、「オープンキャンパスに参加して」(9.7%)である。(なお、上位3つ・下位3つとも(順位に多少の入れ替わりはあるが)項目は昨年度とまったく同じであった)【Q46】。

大学生活で大切だと考えていることは何かを複数選択可で尋ねたところ、「幅広い教養を身につけること」(61.4%)・「友人や先輩・後輩との出会い・ふれあい」(60.9%)・「専門的な知識を身につけること」(56.6%)・「就職先の決定」(48.8%)となった。これら4項目が上位を占めるのは例年と変わらないが、「就職先の決定」が50%を下回ったのは、2012年度以降で今回が初めてではないかと思われる。キャンパス別にみると、小金井の学生は市ヶ谷・多摩よりも「専門的な知識を身につけること」をより重視し(市ヶ谷56.5%・多摩48.2%・小金井72.2%)、他方、課外活動をあまり重視していない(市ヶ谷21.8%・多摩23.3%・小金井14.6%)ようである(数値の違いはあるものの、昨年度も同様の傾向が見受けられた)【Q47】。

「最も充実・改善を望む施設・設備」を「1つだけ」選んでもらったところ、最も選ばれたのは「食堂」の25.1%、次いで「一般教室」の17.8%、「図書館」の10.3%となった。キャンパス別にみると、市ヶ谷と小金井はおおむね似たような傾向があり、最も改善が望まれているのは「食堂」(市ヶ谷27.9%・小金井27.1%)、次いで「一般教室」(市ヶ谷16.6%・小金井17.3%)となる。これに対し多摩では、学生が最も改善を望むのは「一般教室」(20.6%)で、次いで「食

堂」(18.0%)となる。なお多摩では、他キャンパスに比して「スポーツ施設」の改善を望む声も大きい(市ヶ谷 1.5%・多摩 8.9%・小金井 2.0%)【Q48】。

「最も充実・改善を望むサービス」を「1 つだけ」答えてもらったところ、全体では「授業」(27.2%)が最も多く選ばれた。学部別にみると、人間環境学部で「授業」との回答が 40.5%に上っているのがやや目立っている。キャンパス別にみると、多摩では「交通問題(バス増便・運行時間延長等)」を挙げる回答が 50.1%と圧倒的に多いが、実は小金井でも 12.9%が交通問題を回答している点(「授業」(30.5%)に次ぐ 2 位)には注意が必要であろう。市ヶ谷で「授業」(32.5%)の次に回答されているのは「就職支援」である(市ヶ谷 10.4%・多摩 4.3%・小金井 6.4%)。「1 つだけ」の回答を求める設問であるにもかかわらず、市ヶ谷・小金井では「サークル活動支援」を回答する者が一定数みられるのに対し(市ヶ谷 5.7%・小金井 6.8%)、多摩ではそのような声はほとんどみられない(0.6%)のも特徴的と言えようか【Q49】。

「学生向け窓口(相談)の対応に満足していますか」との問いに対しては、「満足している」学生(80.2%)が、「満足していない」学生(6.3%)を大きく上回っている【Q50】。「満足していない」学生の望む「改善点」(複数選択可)のうち、最も多く選ばれたのは「応接態度(言葉遣い)」(36.3%)、次いで「問合わせ先の明確化」(33.9%)であった【Q50-1】。